

埼玉連だより

令和3年11月30日

第
68号

★発行事務局 〒359-0026 所沢市牛沼 250-19 (本橋民夫方) TEL・04-2995-3839

埼玉県弓道連盟総務委員会

コロナ禍の臨時中央審査会

会長 本橋 民夫

【全般】

令和3年度の全日本弓道連盟の事業はコロナ禍による制約はあるものの、年度計画に沿って行われております。大会は規模を縮小したり、通信射会にしたり工夫をこらして行っております。審査会は移動を少なくする為、各地区単位で行われ、埼玉県弓道連盟は北関東地区臨時中央審査会の運営を担当することになりました。臨時中央審査会は通常の審査会とは異なることが多いので、運営委員は各支部に任せるのではなく、全県で対応することにしました。

運営に当たっては、各部署の責任者等の参加による「運営委員会議」を行い、事前の準備事項及び新型コロナウイルス感染防止対策の確認等を行いました。「前日準備」では、コロナ対策に応じた会場設営、控室の設営等の準備を行い、当日の流れの検討等を行いました。

【進行係】

進行係は5人で担当し、射場内の進行及び控えにいる受審者の案内、統制等を行いました。審査会場は道場の前半分とし、後ろ半分を第2、第3控えとしました。それにより廊下の空間が出来たので、受審者の移動を一方通行として相互接近の混雑を緩和することができました。

遠的場の控室には、前後左右の間隔を十分確保して、立ごと椅子を5脚ずつ用意しました。受審者が1階の控に移動した後は、総務係と協力して全ての椅子の消毒をして次の控の人の入場に備えました。短時間での作業でしたが、相互に連携良く迅速に行われました。

1階の第2、第3控では、立ごと机と椅子を用意し、受審者の持ち物は机の上に置いて控えて頂きました。その持ち物は、受審者が射技を終えて

持ち帰る迄、運営委員は触れないようにしました。受審者が机の上の持ち物を持ち帰ってから迅速に机、椅子の消毒をし、次の立の受審者を案内しました。

【総務係】

受審者の受付は立ごと受付時刻をずらして2階の遠的場で行いました。狭い入り口で受付・健康チェックシートの回収及び検温も行いましたが、担当者の事前準備及び連携も良く行われて混乱することもありませんでした。

消毒に関しては、審査員の控室、受審者の控室、更衣室、トイレ等あらゆる場所を定期的に巡回し、机、椅子、ドアノブ等の消毒を行いました。

接遇に関しては、感染防止を最優先に考え、物のやり取りを最小限にして、準備するものは弁当・ペットボトル、ポットのお湯のみとしました。休憩時の湯茶のサービスも省略しました。

【看的係】

日よけ、暑さよけのため、看的所付近にテントを張って看的を行いました。3人という少ない人数でしたが、射場との連携及び看的相互間の連携が良く、円滑に業務を遂行していました。

【まとめ】

臨時中央審査会は3度延期され、未だ6回のうち2回実施したのみですが、各運営委員の方々はいずれも積極的に活動しておりました。

コロナ禍で初めての臨時中央審査会の運営であり、経験したことのない事が多々発生することを予測し、入念な話し合い等をして備えました。

ガイドラインや手引きを参考にし、更に厳しい感染防止対策を追加しての運営でしたが、感染防止対策にやり過ぎる事はありません。コロナ禍での大会、審査会、講習会等の行事は、これからしばらく続くと思います。各人の意識の高さが一番の感染防止になります。

一人ひとりが気の緩みのないように過ごしたいものです。



祝 浅野有三教士八段

生涯スポーツ功労賞受賞

会長 本橋 民夫

この度、浅野有三先生が令和3年度の生涯スポーツ功労賞を受賞されることになりました。この賞は、「地域におけるスポーツの振興に功績のある人」で現在もスポーツを熱心に指導している人に対して贈られるものであり、文部科学大臣が審査の上決定するものです。誠に名誉なことで、大いなる喜びです。

浅野先生は、昭和44年中央大学入学とともに弓道部に入部され、すぐに頭角を現し多くの大会で活躍されました。特に、全関東学生選手権、都学連リーグ戦、全国学生王座決定戦等での優勝、準優勝に大きく貢献されました。

卒業後も地元で弓道を継続され、県内外において広くご活躍されました。全国規模では、明治神宮奉納射会で優勝されるとともに、全日本選手権大会には、5回出場されております。

また、埼弓連指導委員として長きに亘り後進の育成に貢献するとともに、豊富な知識と経験を生かして埼弓連の運営に尽力されました。特に、常任理事、理事長として埼弓連を牽引した功績は大なるものがあります。

令和元年度からは全日本弓道連盟の副会長として各地連の取り纏め、各種行事の執行、財務等多方面にわたってご活躍されております。

浅野先生の主な役員歴は次の通りです。

平成 11 年	埼弓連 指導委員	(22 年)
	埼弓連 指導副委員長	(3 年)
平成 11 年	埼弓連 国体強化委員	(6 年)
	埼弓連国体強化副委員長	(2 年)
平成 13 年	さいたま市弓連 会長	(8 年)
平成 23 年	県立武道館 講師	(10 年)
平成 27 年	埼弓連 理事長	(5 年)
平成 30 年	全弓連 中央講師	(3 年)
令和 元年	全弓連 副会長	(2 年)

上記の通り、浅野先生におかれましては、会務運営及び会員指導の面で多大なる貢献をして頂いており、この度の受賞にはふさわしい人であると思います。

会員を代表してお祝いを申し上げます。

誠にとおめでとうございます。



令和3年度生涯スポーツ功労賞を受賞して

教士八段 浅野 有三

令和3年9月29日に、平成3年度生涯スポーツ功労賞の表彰が決まったとのご連絡をいただきました。

この賞は、「市町村などの地域において、引き続き10年以上スポーツの普及奨励のための指導に特に尽力した者(抜粋)」という趣旨だそうで、文部科学大臣から表彰されるものです。

長きに亘り地元及び県央支部会員の指導に協力させて頂きました。平成11年からは埼弓連指導委員会委員、副委員長等20年以上に亘って埼弓連の指導部門に携わってきました。この間、特に基本に忠実な指導・相手に応じた指導を心掛けてきました。このことが評価されたものと思います。

今後も指導委員として、埼弓連の後進の指導に当たりたいと思いますが、そのためには私自身の精進、勉強が必要と考えています。現在、全弓連の講師研修会も開かれていませんが、自分自身を高みに持っていくよう自己研鑽に励み、その結果を会員の皆様に還元したいと考えています。生意気を言ってしまうかもしれませんが、そのくらいの目標を持っていないと自分自身が緩んでしまいます。「誠心誠意」「莫妄想」「高山推車」を忘れないで精進したいと思います。



専門委員会だより

総務委員会

総務委員会の活動報告

総務委員長 竹内せき子

総務委員会は、今年度2度の委員会をリモート会議で行いました。

昨年より開始されましたリモートによる会議は、慣れるに従い、よりスムーズに意見が交わされるようになり、今や違和感を感じられません。コロナ禍が収束し、また元通りの対面による会議に戻るまでの間、リモート会議はまだまだ続きそうです。

総務委員会では、埼玉連だよりの発行、そしてホームページの運営の二本立てで、会員の皆様に情報を発信しております。

コロナ禍にあつて、思う様に道場に行けない人たちのためにも、タイムリーな情報を、埼玉連公式ホームページ「埼玉連からのお知らせ」に載せ、閲覧できるように致しました。

●令和3年度埼玉連制服作成について

昨年度より引き続いておりました、制服の注文、採寸の開始、制服代金の集金、そして受け渡ししが9月26日をもって終了となりました。長期にわたり、各支部長、支部役員、各道場関係者には募集から集金まで、大変お世話になりました。感謝申し上げます。

今回、制服の作成は予想を上回る注文数となり、埼玉連から、補助金としての予算500,000円をはるかに超え955,000円となりました。

支部	男女区分	メンズJK	メンズパンツ	ネクタイ	レディースJK	レディースパンツ	レディーススカート	注文者数(男女別)
秩父	男	5	6	5				6
	女				3	2	0	3
県北	男	26	28	24				27
	女			1	23	23	1	23
東部	男	11	11	9				11
	女			1	15	15	1	15
県南	男	11	11	14				11
	女				14	12	0	14
県央	男	25	26	24				26
	女			1	20	22	1	25
西部	男	7	8	9				9
	女				11	10	1	12
中部	男	15	16	15				16
	女				13	13	0	13
合計	男	100	106	100				106
	女				99	97	4	105

	20代~	30代~	40代~	50代~	60代~	70代~	80代~	総計
1初段			1	1		1		3
2二段	1	1	1	2				5
3三段			3	4	7			14
4四段	2	1	9	19	16	4		51
5五段	1	3	8	28	21	8	1	70
6錬五		3	3	10	6	7		29
7錬六			2	4	7	2		15
8教六				7	6	3		16
9教七				1	3	4		8
総計	4	8	27	76	66	29	1	211

種別	金額(税込・円)	(参考) 制服上下金額	
メンズJK	14,850	メンズ上下	23,100
メンズパンツ	8,250	レディース上下	23,100
ネクタイ	1,760	▲県連補助	5,000
レディースJK	14,850	補助金差引金額	18,100
レディースパンツ	8,250		
レディーススカート	8,250		
郵送	1,100		

購入者の、段級位、年齢等からみても若い弓道人の「これから」に期待を持てるのではないのでしょうか。

●業務用会員名簿の発行について

一年おきに発行しております業務用会員名簿は、例年にならい、6月30日時点での全弓連会員管理システムのデータを基に作成致しました。前回と同様、個人データの保護と流出を懸念し、IT事務所での作成となりました。

なによりも残念なことは、昨年から続いているコロナ禍により、初心者教室が開けなかったことによる会員の減少です。

そして長年、弓道界を引っ張ってこられた会員が退会されたことです。

仕方のないこと、と思いつつも、馴染みのある名前を消すことにためらいを感じます。

埼玉県弓道連盟の長い歴史の中、そうそうたる顔ぶれの先生方が、総務委員長を歴任され、粛々と受け継がれてきた中で、私？でいいのだろうか・・・重責に、不安や戸惑いを感じる日々を送っています。

総務委員として15年、IT事務所に通い始めて17年が経とうとしています。その経験をもとに、自分なりのやり方で、少しでも埼玉連の発展に貢献出来たら、との思いで頑張っております。

会員の皆様にはご支援、ご協力を賜ります様、宜しく願い申し上げます。

指導委員会

コロナ禍の弓道修練

委員長 飯島千代子

新型コロナウイルスの感染防止を徹底し、安全な環境下で各会員が安心して講習会に参加できるように受講の手引きを策定いたしました。

- ① 入館時の体温測定
- ② 三密を避けるための換気・入場制限
- ③ 手洗い消毒管理の徹底
- ④ 行射時以外でのマスクの着用

その他受講にあたっての注意や昼食時の注意等が細部にわたって網羅してあります。これらの項目を遵守し、新型コロナウイルスに感染しないさせないという意識を持ち、当面は受講生30人までに制約した開催となります。

今年度は、全弓連地方委員資格更新が必要な該当者が173名おります。また資格の新規取得については、別項目で説明しておりますので、参考にしてください。

コロナ禍で、昨年からの各種事業が計画通りに実践できない状態です。講習会も申し込まれても感染対策上、お断りせねばならない場合もありますが、皆様が平等に受講できるように考えております。

この時期に全弓連の月刊誌「弓道」で学ぶことをお薦めします。

一例として2019年3月号から掲載の「射法八節」上達への道（初心者向け）。「胴造りについて～手の内との相関～」等が掲載されております。初心に帰り、基本を見つめなおし、何故そうしなければならないのかを理解することが肝要ではないかと思えます。

2020年4月号から、昭和の時代に掲載された記事が再掲載されております。阿波研造範士が35.5kgの弓を引いていたことや、7・8・9・10月号では「軽妙な離れについて」「弓射における基本について」「手の内の働きとは?」「早気を如何にして克服するか」他の号では「残身について」「軽妙な離れについて」その他、日ごろ私たちが迷ったりしていることを、解消してくれる記事が満載されております。

コロナ禍、日常生活の中で弓道修練の場を見出し、秋の夜長に過去の弓道誌を広げてみようではありませんか。道場に行けなくても得るものがあると思えます。

競技委員会

上半期の報告

委員長 市川 政子

コロナ禍で開催されたオリンピック・パラリンピックをテレビで観戦し、選手の活躍に拍手を送り、感動したものです。皆さんはどの様にご覧になりましたか。

競技委員会ではコロナ感染対策をしながら各大会を開催してきました。

●5月2日 第72回全日本弓道大会（通信制）参加55名 全弓連での集計結果で有段者の部1,439名中、簡野肇平五段（新座）が3位に入賞されました。

●5月10日 第33回埼玉県実年者弓道選手権大会・ねんりんピック県予選会 参加61名 さいたま市代表と埼玉県代表を選考しましたが『ねんりんピック岐阜』は中止となりました。

●5月30日 埼玉県弓道選手権大会 兼 各種選考会（称号者の部）参加76名 全日本選手権関東ブロック大会出場選手を選考。6月27日 群馬県で開催のこの大会に参加しましたが、全日本選手権大会への通過者はいませんでした。関東選抜選手権大会の出場選手も選考しましたがこの大会は中止となりました。

●7月10日 埼玉県遠的選手権大会 参加78名 全日本遠的選手権大会（10月31日）出場選手を選考。

●7月17日 県民スポーツ大会（中学生の部）参加89名 男女団体1位のチームが全国中学生大会（通信制）に参加しました。

●7月25日 埼玉県弓道選手権大会（有段の部）参加95名 関東選抜選手権大会の出場選手を選考しましたがこの大会は中止となりました。

●9月20日 埼玉県勤労者弓道選手権大会は中止となりました。

●10月3日 県民総合スポーツ大会（一般の部）参加82名 遠的・近的共に4つ矢1回。選手の皆さんは集中して競技に臨んだことと思います。

大会に参加するにあたり各自感染対策を行い健康チェックシートを必ずご持参ください。

国体選手強化委員会

関東ブロック大会

委員長 古泉 利昭

コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、7月23～24日の両日、関東ブロック大会が栃木県宇都宮市のユウケイ武道館で開催されました。

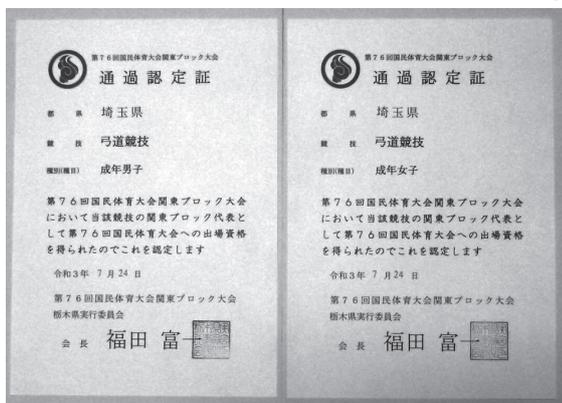
この建物は完成からまもなく、地中熱を使用した冷暖房設備を備えるなどとても立派な道場で、夏の暑い中、冷房の効いた快適な環境で競技に臨むことができました。

ただ、コロナ禍ということで一般の応援は禁止、応援席に入れるのは選手や帯同者のみ、それも各県5名迄でした。また、国体競技に付き物の拍手や「ヨシ！」の掛け声も禁止とのことで静かな応援席でした。

そして競技の方ですが、コロナ禍で弓道場の利用や少年においてはクラブ活動が制限されるなど練習不足が懸念される中、少年の男子は1位、女子は同点1位、成年男子は同点3位、女子は同点2位で、それぞれブロック大会を通過し、三重で開催される本大会の切符を手にすることができました。これも選手の頑張りとは勿論ですが、会員の皆様の温かい応援があったればこそと深く感謝いたしております。

しかし、喜びも束の間、三重国体は皆さんご存じのようにコロナ感染症の急激な感染者増加により中止となってしまいました。

本当に選手は残念であったと思いますし、私も選手には勝ち負けは別にして、あの本大会の雰囲気味わってもらいたかったと思います。



(ブロック大会の通過認定証)

また、11月からは、来年の「2022 いちご一会栃木国体」を目指して「育成会」が始まりますが、国体選手強化委員一致協力して、選手育成に頑張りますので、ぜひ大勢の方にご参加いただければと思います。

審査委員会

ウィズコロナで審査会はどうなる？

委員長 齋藤 安次

平素からコロナ禍における審査会にご協力いただいていますこと厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス(以下「コロナ」)感染症の緊急事態宣言が解除され、経済活動再開のため行動制限が段階的に緩和されようとしています。一方で医療界からは冬よりも前に第6波が来る可能性があると言われてしています。

審査会は1回で150人を超える大きな事業なので「感染しない・感染させない」ことを狙いとして、日々の健康管理と感染防止行動について意識して頂くをお願いしております。

会員の皆様におかれましては、コロナ禍での弓道稽古はご苦労が多いことと思います。

今年度の審査会方針は各種別(初段～七段、錬士・教士)において3回以上受審機会をもてるように進めております。

●令和3年度審査会の前期概況について

コロナ感染対策と対峙しながら、埼玉県弓道連盟(以下「埼弓連」)が主管する審査会は従来年間6回であったものが、今年度は15回実施されます。感染者数が急増し、5回の審査会が延期となり実質20回以上に相当する審査会を経験することになります。非常に多くの方々のご協力に支えられて何とか事業運営できています。本当にありがとうございます。

◇4月から9月までの審査会実施状況

- 第1回地方審査会 920名
(高校生以下のビデオ審査/初段)
- 第2回地方審査会(五段)165名
- 第3回地方審査会 273名
(一般四段以下/高校生 参段)
- 臨時中央審査会(六段・教士)128名
- 臨時中央審査会(錬士・七段)132名

●審査会の延期と中止について

埼玉県では4月20日から8月1日までまん延防止等重点措置、8月2日から9月30日まで緊急事態宣言が發布されており、延期を余儀なくされました。

審査会の準備は、中央審査で3ヶ月前、地方

審査でも2か月前から開始されます。1ヶ月前の延期決定は各審査受付担当者に多大なご負担をお掛けすることになってしまいました。

今年度になって5件の審査会が延期になり、その都度会場の予約調整や役員のお願いと、審査料をお返しする業務が発生しました。新たな対応として審査料は実施日の1週間前まで支部でお預かり頂くことにしました。何れにしても特別な対応が多く関係者にはご心配をお掛けしていることもあると思います。

●生徒及び学生のビデオ審査会について

昨年度は高校生のみが部活の中でビデオ撮影をして審査をしましたが、今年度は一般道場所属の小・中学生、高校生も対象にしたビデオ審査会を実施しました。コロナ感染防止対策としてビデオ審査を実施するのであれば、全ての生徒（小・中・高・大）がビデオ審査を受審できなければ不公平感が残ると考えました。（年度当初に全日本弓道連盟へ届け出済）

また、大学生は元々一般審査会で受審することになっていますので、一般審査会で受審して頂いています。【学生】特別臨時中央審査会（関東圏対象）は今年度5月は中止、11月は初次段受審者に対しビデオ審査会として実施することになりました。

●その他

◇コロナ禍での審査会は会場が3密にならないよう審査時間に合わせて来場する。学科問題は事前出題し当日提出とします。

健康管理チェックシートの提出は必須。

◇後期（10月以降）は令和3年度審査会事業計画通り実施します。

◇【北関東地区】特別臨時中央審査会（上尾）発出されている要項に沿って実施します。

終わりに会員各位が、少ない時間を効果的に利用して稽古を重ね受審して頂くので、一人でも多くの方に昇段・昇格して頂けるようご祈念申し上げます。

受審者及び運営役員が一体となって、感染対策に万全の措置を講じて参りますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

女子部

コロナ禍における活動について

女子部長 松澤かおり

日頃より女子部の活動にご理解・ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年始めより世界中の脅威となっている新型コロナウイルス感染症は、今もなお感染の拡大と縮小を繰り返す状況が続いております。専門家の見解では現時点ではこのウイルスの根絶による終息は難しいと考えられることから、今後はワクチン接種の推奨や感染防止対策を講じた上で、停止されていた活動を徐々に再開する、いわゆる「With コロナ」の形で以前の日常に近づいて行くことを目指すようです。

埼玉連も10月より活動を再開するにあたり、各専門委員会より示されているコロナ禍における開催の手引きが見直されました。これにあわせて女子部も11月23日に予定している埼玉連女子部弓道大会の開催を見据えて、開催の手引きを作成いたしました。

今回の女子部弓道大会の実施については女子部で何度もミーティングを重ね、参加者と運営役員の双方が安全に大会を実施することが可能か検討してきました。

女子部の中には家族の介護をしている人やワクチン接種ができない年齢の家族がいる人もいため、感染リスクを伴う開催については慎重に対応せざるを得ませんでした。

しかし、現在のような状況が数年は続くであろうとも言われており、いつまでも立ち止まって嵐が過ぎるのを待っていることはできません。感染リスクが低くなるよう、徹底した感染防止対策を施して運営することが私達役員の役目と考え、今回の大会を実施することにいたしました。

参加申込期限は10月17日としましたが、感染に対しての考え方は地域や年齢、性別等によって様々ですのでそれぞれの考えで参加を決めていただきたいと思います。

「感染しない、させない」を念頭に置いて安全な運営に努めて参りますので、皆さまのご協力を賜りたくお願い申し上げます。

高 体 連

令和3年度前半を振り返って

委員長 坂本 修

日頃より弓道連盟の皆様には、高体連弓道専門部の活動にご理解、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない状況ではありますが、上位大会において本県の選手が健闘いたしました。関東大会では、男子団体で川越高校が初優勝し、女子団体で坂戸西高校が技能優秀校に、個人で男子が第2位、第3位、女子が第7位に入賞いたしました。インターハイでは、女子団体で坂戸西高校が8位という立派な成績を収めてくれました。各大会とも新型コロナ対策として、無観客での実施、毎日の検温、健康チェック表提出、入場制限、手指消毒の徹底が実施されました。無観客のため寂しい感じもありましたが、何よりも開催できたことが生徒のためにもよかったと感じております。開催都県の役員の先生方や補助役員の生徒の皆様には感謝申し上げます。

インターハイ県予選において、初めての試みとなる動画配信を、東芸イメージクリエイション様のご協力により実施いたしました。おかげさまで好評のうちに終えることができました。関係者の皆様ありがとうございました。

国体関東ブロック大会では、少年男女とも1位で予選通過しました。男女アベック通過は平成21年以来でしたが、それだけに本国体中止はとても残念でなりません。

7月31日(土)に弓道連盟主催の顧問勉強会が県立武道館で開催されました。弓道部の顧問をされている先生方を中心に31名の参加があり、本橋民夫会長、鹿野信恵先生、松澤かおり先生のご指導の下、大変意義のある一日を過ごすことができました。ご多忙の中、講師をお引き受けいただきました3名の先生方に感謝申し上げます。

<大会結果>

●関東大会県予選

令和3年4月17日(土)18日(日)24日(土)
男子 130 チーム 402 名
女子 142 チーム 431 名

大宮公園弓道場、県立武道館

○男子団体／①川越A(川上大成、矢島 翔、田坂健吾、谷合理央)②栗橋北彩A(齊藤 陸、滝口隆輝、狩野 匠、坂本愛斗)③伊奈学園A(佐々木壱也、松本大知、伊藤啓志、山本温大)④川越初雁A(牧田龍之介、志村涼太、成瀬 明、高橋 楽) ※男子団体4位まで関東大会出場
○女子団体／①坂戸西B(山田花怜、榊原百合恵、荻野瑠奈、遠藤菜々)②坂戸西A(荒木夏月、野村真奈、酒井千花、船津綾乃)③与野A(篠田 楓、木村花菜子、武田実沙、湯本彩愛)④大宮東B(小林由愛、黒田聖乃、矢部陽菜、加藤結衣)⑤深谷第一B(坂西美優、中山 凜、高田月穂、石川由希菜) ※女子団体5位まで関東大会出場

○男子個人／①和田拓真(東京農業大三)②齊藤 陸(栗橋北彩)③松本大知(伊奈学園)④前原伊吹(深谷第一)

○女子個人／①荒木夏月(坂戸西)②田口未侑(大宮東)③手塚理子(西武文理)

●高校遠的選手権大会

令和3年5月2日(日) 県立武道館弓道場

○男子個人／①佐々木壱也(伊奈学園)②井上怜音(川越工)③新井杏輔(桶川)

○女子個人／①荻野瑠奈(坂戸西)②竹林紗良(久喜北陽)③野村真奈(坂戸西)

●第65回関東高等学校弓道大会

令和3年6月4日(金)～6日(日)

ALSOK ぐんまアリーナ特設弓道場

○男子団体／①川越(川上大成、矢島 翔、田坂健吾、太田将哉)来年度推薦出場

○女子団体／技能優秀校：坂戸西(荒木夏月、野村真奈、荻野瑠奈、山田花怜)

○男子個人／②齊藤 陸(栗橋北彩)③川上大成(川越)

○女子個人／⑦野村真奈(坂戸西)





●高校総体県予選

令和3年6月11日(金)12日(土)19日(土)

女子74チーム508名

男子72チーム476名

大宮公園弓道場、県立武道館

○女子団体／①坂戸西(野村真奈、荒木夏月、荻野瑠奈、榎原百合恵、酒井千花、船津綾乃、山田花怜)②与野(篠田 楓、木村花菜子、武田実沙、湯本彩愛、中村仁美、太田明華麗、高田菜里)③草加西(関根百香、田代美空、天木希風、青木凜花、安達なな、庄司 楓、境野万莉奈)④大宮東(田口未侑、右島早彩、本図茉彩、小林由愛、阿部 蓮、加藤結衣、黒田聖乃)

○男子団体／①東京農業大三(秋山航翼、岩崎照英、池田剛大、荒川瑛大、和田拓真、北野蓮、加藤万葉)②川越(川上大成、矢島 翔、太田将哉、新井悠大、田坂健吾、谷合理央、峯岸孝弥)③本庄(大塚啓太、佐藤遊方、杉連太郎、小橋川廉、大村英汰、田代駿太、夏目康太)④伊奈学園(伊藤啓志、松本大知、有永雅久、境澤拓登、佐々木壺也、石川龍太郎、廣瀬蒼空)

○女子個人／①品田唯華(川越女子)②本図茉彩(大宮東)③山田花怜(坂戸西)④中村仁美(与野)⑤田代美空(草加西)⑥野村真奈(坂戸西)⑦井村理佐(武蔵越生)⑧内山美咲(伊奈学園)

1、2位が本大会出場

○男子個人／①杉連太郎(本庄)②野沢 匠(秩父農工科学)③齋藤 陸(栗橋北彩)④岩崎庄澄(坂戸西)⑤齋木大誠(浦和北)⑥勝沼翔和(浦和実業)⑦荒井迅權(所沢北)⑧佐々木壺也(伊奈学園) 1、2位が本大会出場

●第76回国体関東ブロック大会

令和3年7月23日(金)24日(土)

栃木県ユウケイ武道館弓道場

○少年男子／齋藤 陸(栗橋北彩)、太田将哉(川越)、佐々木壺也(伊奈学園)、監督：山田尚子(伊奈学園)、コーチ：田島健男(栗橋北彩)、山崎康太(大宮南 女子も兼任)

○少年女子／野村真奈(坂戸西)、内田藍菜(秩父農工科学)、荻野瑠奈(坂戸西)、監督：丸山康弘(秩父農工科学)、コーチ：古岡大路(坂戸西)

少年男子：近的2位、遠的2位、総合1位

少年女子：近的2位、遠的1位、総合1位

※男女共本大会出場権獲得

●第66回全国高校総体

令和3年7月29日(木)～8月1日(日)

新潟県謙信公武道館特設弓道場

○女子団体／⑧坂戸西(野村真奈、荒木夏月、荻野瑠奈、山田花怜、酒井千花、榎原百合恵)



●関東個人選抜県予選

令和3年8月25日(水)～26日(木)

県立武道館 参加：男子416名、女子448名

○男子個人／①野沢 匠(秩父農工科学)②齋藤 陸(栗橋北彩)③齋藤颯太(熊谷商業)④森田涼介(大宮東)⑤関口雄介(坂戸西)⑥前原伊吹(深谷第一)⑦嶋田大飛(東京農業大三)⑧小川陽平(大宮東)⑨福田優輝(大宮東)⑩梅本恒恭(坂戸西)⑪黒木 心(大宮東)⑫高柳晴仁(慶應志木)

○女子個人／①田口未侑(大宮東)②高木朋花(鳩ヶ谷)③北島 花(坂戸西)④荻野瑠奈(坂戸西)⑤天野愛弓(草加西)⑥三浦郁美(大宮東)⑦中畝遥香(越ヶ谷)⑧武蔵穂乃花(栗橋北彩)⑨小林遥栞(久喜)⑩齋藤美悠(大宮南)⑪和田さくら(東京農業大三)⑫池田千尋(秩父農工科学)⑬杉下花恵(大宮光陵)

●第40回関東個人選手権選抜大会

令和3年9月11日(土)12日(日)

明治神宮至誠館第二弓道場 入賞者なし

大会・射会入賞記録

●第72回全日本弓道大会 地連別開催、通信大会

令和3年4月24日～7月31日 参加者1,439名

有段者の部：3位 簡野肇平（新座）

●第140回明治神宮奉納遠の大会 令和3年5月3日【中止】

●第33回埼玉県実年者弓道選手権大会兼ねりんピック県連予選会

令和3年5月10日（月） 埼玉県立武道館 参加者61名

○埼玉県実年者弓道選手権大会：①望月 衛（久喜）②小島玄二（熊谷公園）③鷹巣光子（駒場）④宮崎 博（狭山）⑤坂川隆人（所沢）

※順位決定は予選成績を射詰めとみなし、先に外した矢の早い方を下位とする。

○県代表選手：①坂川隆人（所沢）②望月 衛（久喜）③小島玄二（熊谷公園）④宮崎 博（狭山）⑤杉山浩子（上尾）⑥渡辺由紀子（富士見）⑦藤崎智子（熊谷公園）、監督：望月 衛（久喜）

○さいたま市代表選手：①森 半一郎（大宮）②廣川哲次（駒場）③中島英一（大宮）④鷹巣光子（駒場）⑤佐々木直子（大宮）⑥中島美佐子（大宮）⑦大塚経子（大宮）、監督：鷹巣光子（駒場）

※令和3年11月予定 岐阜県ねりんピックコロナ感染拡大のため中止

●埼玉県弓道選手権大会（称号者の部）

令和3年5月30日（日） 熊谷運動公園 参加者76名

①廣川哲次（駒場）②北原きい子（北本）③保科義憲（東松山）④宮崎正範（吉川）⑤安野雄次（小川）

○全弓連会長楯：廣川哲次（駒場） ※争奪戦を行えず、称号部優勝者に授与

●第68回全日本勤労者弓道選手権大会 令和3年6月5日【中止】

●全日本弓道選手権大会関東ブロック予選

令和3年6月27日 ALSOK ぐんま武道館弓道場 参加者40名

出場選手：島村保男（熊谷公園）、瀧上三郎（吉川）、松澤かおり（大宮）、北原きい子（北本）

●第33回埼玉県弓道遠的選手権大会

令和3年7月10日（土） 埼玉県立武道館 参加者78名

○男子四段以下の部：①町田智行（岩槻）②三田 明（春日部）③石原邦浩（行田）

○女子四段以下の部：①篠原妃誉（ふじみ野）②前澤梨江（春日部）③田辺智子（岩槻）

○男子五段以上の部：①宮内 毅（越谷）②和田秀之（啐啄）③柿沼清孝（春日部）

○女子五段以上の部：①吉澤郷実（啐啄）②室町純子（志木）③生方美代（記念）

○総合優勝：篠原妃誉（ふじみ野） ※今年は、各部門優勝者のうち最高の中者

●第20回明治神宮崇敬会全国弓道大会 令和3年7月11日【中止】

●第76回国民体育大会 関東ブロック予選会

令和3年7月24日（土） 栃木県総合運動公園ユウケイ武道館弓道場

○少年男子／監督：山田尚子（伊奈学園総合） コーチ：田島健男（栗橋北彩）、山崎康太（大宮南）

選手：齊藤 陸（栗橋北彩）、太田将哉（川越）、佐々木壱也（伊奈学園総合）

○少年女子チーム／監督：丸山康弘（秩父農工科学） コーチ：古岡大路（坂戸西）

選手：野村真奈（坂戸西）、内田藍菜（秩父農工科学）、荻野瑠奈（坂戸西）

○成年男子チーム／監督：古泉利昭（さいたま市）

選手：長井敦史（熊谷）、高野 聖（久喜）、新里 陵（久喜）

○成年女子チーム／監督：吉澤和代（秩父）

選手：小野千絵美（さいたま市）、室町純子（志木）、篠原妃誉（ふじみ野）

※9月26日～の第76回「三重とこわか国体」は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

●埼玉県弓道選手権大会（有段者の部）

令和3年7月25日（日） 埼玉県立武道館 参加者 95名

○参段以下の部：①石原邦浩（行田）②松井啓介（春日部）③相原一弘（上尾）④川口 治（上尾）⑤町田智行（岩槻）

○四・五段の部：①田辺智子（岩槻）②會田春樹（深谷）③遠田弘志（幸手）④松本英悟（草加）⑤新島 崇（幸手）

○全弓連会長楯：田辺智子（岩槻） ※四五段の部の優勝者に授与

●第62回関東地域弓道選抜選手権（称号）（有段） 令和3年9月4日～ 【中止】

選出選手／称号の部：宮崎正範（吉川）、仲田孝雄（上尾）、西岡謙市郎（深谷）、坂東 文（日高）、武政宏美（岩槻）／有段の部：田辺智子（岩槻）、新島 崇（幸手）、松本英悟（草加）、森 博子（北本）、遠田弘志（幸手）

●第59回埼玉県勤労者弓道大会 9月20日 【中止】

●第76回国民体育大会弓道競技 9月26日～ 【中止】

●第34回埼玉県民総合スポーツ大会【一般の部】

令和3年10月3日（日） 埼玉県立武道館

参加者 82名（28チーム）

○近的団体／○女子：①草加（日向美智子、浅井千恵、宮島直子）②さいたま市A（田辺智子、フビジエンヘザヤ、生方美代）③川越A（古屋英美、山下由美子、川口えり子）

○参段以下：①富士見A（岡田次雄、奥村 彰、神田直紀）

②さいたま市B（北島康弘、石田悦子、橋詰伸二）③春日部A（渡辺健一、三田 明、立川 仁）○四・五段：①上尾B（木村鷹士郎、内藤今朝雄、齋藤幾央）②日高（篠原和子、関 竹夫、沼倉光広）③熊谷B（長井敦史、三澤一夫、吉田恵子）

○称号：①毛呂山B（秋馬敏夫、北村邦男、小駒 康）②秩父市（黒沢 誠、守屋 豊、吉澤和代）③吉川（宮崎正範、五十川英俊、瀧上三郎）

○近的個人／○女子：①浅井千恵（草加市）②川久保真弓（深谷市）③古屋英美（川越市）○参段以下：①岡田次雄（富士見市）②三田 明（春日部市）③今枝武司（坂戸市）

○四・五段：①篠原和子（日高市）②齋藤幾央（上尾市）③三澤一夫（熊谷市）○称号：①宮崎正範（吉川市）②秋馬敏夫（毛呂山町）③吉澤和代（秩父市）

○遠的団体／○女子：①さいたま市A（田辺智子、フビジエンヘザヤ、生方美代）②上尾A（白石美奈子、村上広子、村上節子）③富士見B（向井真衣、石井千春、藤澤和子）○参段以下：①熊谷A（小島玄二、大嶋道雄、新井好一）②春日部A（渡辺健一、三田 明、立川 仁）③秩父市（島崎真城、丸山貴晴、内田 翼）○四・五段：①秩父市（若林 陵、瀬戸美代子、加藤佳宏）②熊谷B（長井敦史、三澤一夫、吉田恵子）③所沢E（関口研二、関口二郎、中村徳海）○称号：①吉川（宮崎正範、五十川英俊、瀧上三郎）②秩父市（黒沢 誠、守屋 豊、吉澤和代）③深谷B（西岡謙一郎、岡戸 隆、寺崎正道）

○遠的個人／○女子：①田辺智子（さいたま市）②向井真衣（富士見市）③村上節子（上尾市）○参段以下：①小島玄二（熊谷市）②内田 翼（秩父市）③三田 明（春日部市）○四・五段：①中村徳海（所沢市）②若林 陵（秩父市）③長井敦史（熊谷市）○称号：①宮崎正範（吉川市）②瀧上三郎（吉川市）③西岡謙一郎（深谷市）

●第72回全日本弓道遠的選手権大会 令和3年10月31日

出場者 男子の部：宮内 毅（越谷）、女子の部：吉澤郷実（啐啄）

○女子の部5位：吉澤郷実



県民スポーツ大会 遠的、近的



秩父支部

支部長 町田 文利

コロナ禍での弓道と支部の活動

支部長 町田 文利

本年度から、前秩父支部長石田徳光先生の後任として、支部長を仰せつかりました。よろしく願いいたします。

秩父支部の喫緊の課題は、減少傾向の会員数を維持するため、新規の会員を何とかして確保したいということです。同時に、会員の高齢化や新型コロナウイルス感染症対策に伴い各種行事の運営方法なども工夫することが求められています。これらを踏まえ、会員の皆さんの協力を得て微力ながら支部の運営に努力していきたいと思います。

さて、昨年1月に「新型コロナウイルス感染症」というニュースが流れて以来、瞬く間に世界中に感染が拡大しパンデミックとなりました。緊急事態宣言の発令など、世の中のあらゆる所で行動規制が敷かれ、私達の弓道活動も大きな制限を受けることとなりました。それまでは大会や審査など年間を通じて目白押しだった行事が、昨年はほとんどが中止となってしまいました。

コロナ禍で道場が利用できない中、私は家で巻藁稽古をしていました。的前で稽古ができないのだから、立ち止まって自身の射を見つめ直す良い機会と思い、ビデオカメラを持ち出し一射引いては画像をチェック。正面から、斜めから角度を変えて撮影しその都度画像をチェック。自身の射を見つめるに、足踏み・胴造り、十文字の乱れ、手先の離れ等まったくもって情けない射、今更ながら基本の大切さを痛感するばかりで、知らず知らずに楽なほうへ流されてしまっていた自身を反省することしきりです。

その後、利用制限はあるものの少しずつ道場での稽古が可能になった時、たとえ矢数が少なくとも、基本を大切に引こうと強く思うようになりました。

そういえば、昨年逝去された松沢先生が生前「百手より一手」と仰っていたことを思い出しました。漫然と一手を百回繰り返すよりも真剣な一手を心掛けなさいと教えていただきました。それから「行射は楷書で」とも仰っていました。

ちゃんとやっているつもりでも、ふっと気が付くとどこかで手を抜いている自分に気が付きません。射法八節はもちろん、基本姿勢、基本動作一つ一つを丁寧に行うことが大切と感じています。

8月8日には支部カップ戦が行われました。5月以来久しぶりに集まったの射会、楽しく充実したものでした。みんなが笑顔で集まり、弓を引く光景は実に清々しくどこか輝いて見えました。大袈裟かもしれませんが、これが私達の弓道の原点なのだと思います。

弓によって親しみ、弓によって協同し、弓射を通じて生活を豊かにすることこそが原点であり、ここを中心にして、それぞれに大会を目指して腕試しをするもよし、昇段・昇格を目指して審査に挑戦するもよし、活動の場を広げていってもらいたいものです。

新型コロナウイルスの感染状況は依然として不透明で、まだまだ終息は見込めない様子ですが、日常が大きく変化してしまったコロナ禍の経験を糧としてこれからの支部の活動を進めていければと思っています。

<競技・講習会>

●支部カップ戦

令和3年8月8日(日) 秩父市第1弓道場
参加25名

○近的/男子:①丸山康弘②町田文利③加藤佳宏/女子:①吉澤和代②瀬戸美代子③福島輝代
○遠的:①内田 翼②町田文利③加藤佳宏

●秩父市弓連・支部合同講習会

令和3年8月22日(日) 秩父市第1弓道場
参加22名 講師:戸塚藤代 教士

●弓道教室

○秩父市 令和3年7月23日～8月24日(火・金) 全9回 秩父市第1弓道場 参加45名
秩父市弓道連盟では、実施に当たり、感染リスクと練習不足を考慮して高校2年生及び中学生のみを対象とした。

○小鹿野町 令和3年7月18日～7月29日まで全10回 小鹿野町武道館弓道場 参加7名

○皆野町 令和3年10月2日～11月6日(土・水) 全11回 皆野町弓道場 参加2名

●スポーツ少年団

毎週土曜日の午後(7月24日～10月2日まででは休止。10月9日より再開) 秩父市第1弓道場 団員36名 指導員:秩父市弓道連盟会員

県北支部

支部長 高橋 久雄

上半期の活動状況と課題

支部長 高橋 久雄

今年度、コロナ禍を考慮し、以下の要領で行事を実施しています。

●講習会

- ・1会場20人までと人数制限し、一回の講習会を2会場2日、延べ4日に分散させた。希望者はそのうち1日を受講してもらう。
- ・昼食を挟んだ講習会はしない。このため午後の実施とし、開始時間を昼12時としました。
- 平日開催もあり、受講者数が一桁のときも。受講者にとっては内容の濃い講習となった。但し、参加者は昼食をどうするか毎回悩まれていることと思います。

●射会・大会

- ・支部カップ戦は通信射会とし、道場毎に成績を出し、それを集計して成績としている。
- ・8月の高校生大会も、学校の先生と相談し通信射会としました。

○従来の射会運営は、参加者が交代で役員をする方法で、専任の役員はいませんでした。このため、時間を指定して引いたらすぐ帰るという方法は、コロナ禍で役員確保の課題があり採れませんでした。

今後の運営方法については、コロナがどうなるか、見据えた検討が必要と考えています。

<競技・講習会>

●令和3年度第1回支部カップ戦（通信大会）

令和3年6月27日（日） 支部内各弓道場
参加95名

◇団体：①本庄A（田中成美、松澤尚一、佐藤敏勝）②鴻巣E（鈴木 泉、吉田幸紀、市川 實）

◇個人：○一部：①島村保男（熊谷公園）②青木 豊（行田）③西岡謙市朗（深谷BT）○二部：①山下広二（鴻巣）②田中成美（本庄）③川久保真弓（深谷BT）○三部：①鈴木 泉（鴻巣）②原 健一（熊谷武道館）③吉田幸紀（鴻巣）

●県北支部高等学校弓道大会（通信射会）

令和3年8月27日（金） 各校弓道場および練習施設 参加：男子124名、女子164名

男子優秀校：熊谷高等学校

女子優秀校：成徳深谷高等学校

男子：①前原伊吹（深谷第一）②齋藤颯太（熊商）③寺田右京（羽生第一）

女子：①大澤綸子（成徳深谷）②黒澤空那（本庄）③上田優真（成徳深谷）

●令和3年度第2回支部カップ戦（通信大会） 兼 県民総合スポーツ大会選手選考会

令和3年9月1日（水） 支部内各弓道場
参加81名

◇団体／①行田3（島崎崇光、青木麻里奈、青木 豊）②行田1（石原邦浩、金子 修、森雅邦）

◇個人／○一部：①青木麻里奈（行田）②岡戸隆（深谷BT）③西岡謙市朗（深谷BT）○二部：①蓑輪匡一（本庄）②長井敦史（熊谷公園）③川久保真弓（深谷BT）○三部：①石原邦浩（行田）②片岡真利（深谷BT）③小島玄二（熊谷公園）

◇県民総合スポーツ大会代表選手

○称号の部：深谷市（西岡謙市朗、岡戸 隆、寺崎正道）○四・五段の部：熊谷市（長井敦史、三澤一夫、吉田恵子）○参段以下の部：熊谷市（小島玄二、大嶋道雄、新井好一）○女子の部：深谷市（川久保真弓、亀卦川良子、西岡好美）

●令和3年度第1回支部講習会

○参段／四段

・4月28日（水） 熊谷運動公園弓道場
参加17名 講師：飯島千代子範士

・5月9日（日） 本庄市弓道場
参加19名 講師：岡芹喜行教士

○初段／弐段

・5月1日（土） 行田市弓道場
参加14名 講師：岡芹喜行教士

・5月9日（日） 本庄市弓道場
参加17名 講師：飯島千代子範士

●令和3年度第2回支部講習会

○参段／四段

・7月8日（木） 本庄市弓道場
参加16名 講師：飯島千代子範士

・7月19日（月） 本庄市弓道場
参加7名 講師：岡芹喜行教士

○初段／弐段

・7月8日（木） 熊谷運動公園弓道場
参加7名 講師：岡芹喜行教士

・7月19日（月） 行田市弓道場
参加7名 講師：飯島千代子範士

東 部 支 部

支部長 二見富士夫

支部長就任あいさつ

支部長 二見富士夫

この度、支部長を仰せつかりました二見富士夫です。前任の北原きい子先生が、東部支部の各道場をしっかりとまとめておられるお姿を拝見するにつけ、自分にはとても無理だと思いが先に立ってしまい、暫くは次期支部長就任の要請を固辞しておりました。しかし、定年退職後に本格的に弓道を再開して約10年、親身になって指導していただいた周囲の諸先輩や弓友の方々に対しての恩返しの意味も含めて、まさに清水の舞台から飛び降りる覚悟で、この大役を引き受けさせていただくことと致しました。

幸い、東部支部の各道場の会員の皆さんは、それぞれの環境の中、工夫をしながら真摯に稽古に勤んでおられ、また、道場の枠を超えて切磋琢磨する会もあり、誠に頼もしい存在です。

この様に素晴らしい支部の活動に多少なりともお役に立つ様に、「誠心誠意」を心掛けて尽力したいと思っております。

ところで、支部長を仰せつかって約半年。コロナ禍のために、幾つかの支部事業は中止になってしまいましたが、新規感染者数がやや落ち着いた7月に昨年度から久々となる射会や講習会を開催することが出来ました。

特に、県南支部さんとの高校生の射会では、「生徒達にとって一生に一度の部活動の機会を現実させてあげたい」という高体連の先生方の熱い思いと尽力で無事に遂行できたことは、コロナ禍にあって素晴らしい実績となりました。

また、懸案であった支部内の受発信のルールやマナーについても改善されつつあります。

これからも、会員の皆様が支部内行事などに参加しやすい環境づくりに努めたいと考えております。

今後ともよろしくお引き立ての程お願い申し上げます。

<競技・講習会>

●第4回東部支部遠的大会

令和3年6月5日(土) 県立武道館 【中止】

●支部選手権 兼 県民総合スポーツ大会予選 兼 武道大会予選

令和3年7月18日(日) 県立武道館弓道場
60名参加(うち近的のみは25名)

①望月 衛(久喜) ②馬場久恵(北本) ③高橋宗次郎(春日部)

●県南東部支部高校選手権

令和3年7月31日・8月21日両日で計451名
大宮公園弓道場

○男子個人①高安由人(桶川)②齊藤 陸(栗橋北彩)③馬淵 誉(伊奈学園)○女子個人③長濱日向子(久喜)

●道場対抗戦兼県武道大会予選 【中止】

令和3年9月5日(日) 県立武道館弓道場

●第1回講習会(一般・四段以下)

令和3年4月11日(日) 県立武道館弓道場
受講生 参加:午前(三段以下)20名/午後(参・四段)36名 講師:北原きい子、村上節子各教士、八木修一、二見富士夫各錬士
内容:審査方式にて一手行射、執弓の姿勢、動作の注意点8項目の確認、射技指導。弓道人の心掛け、他(午前・午後共)

●第2回講習会(一般・四段以下) 【中止】

令和3年5月29日(土) 大宮公園弓道場

●第3回講習会(高校生)

・令和3年7月31日(土) 大宮公園弓道場
県南東部支部高校生選手権大会へ変更
・令和3年8月1日(日) 大宮公園弓道場
受講生99名(2時間入れ替え・3部制)
講師:北原きい子、大上直美、村上節子各教士、脇本 緑、八木修一、二見富士夫各錬士。
内容:本座から退場までの体配、執弓の姿勢、残身、弓倒しの確認

●第4回講習会(一般・四段以下) 【中止】

令和3年9月4日(土) 県立武道館弓道場

●第5回講習会(一般・五段) 【中止】

令和3年9月26日(日) 大宮公園弓道場



画・松本 正

県南支部

支部長 鹿野 信恵

不自由の効用

支部長 鹿野 信恵

今年度、県南支部役員の改選にあたり、森正一先生より支部長職を引き継ぐことになりました。

コロナ禍が猛威を振るうようになって早1年半、いまだに収束の筋道も見えない状況が続いています。昨年に続き様々な行事が中止や延期を余儀なくされ、また普段の稽古においても、感染防止・三密回避の観点から制約を受けざるを得ません。しかし、その中であっても、時間差入場方式での月例射会の実施や、予約制での日々の稽古など、支部内各道場それぞれに知恵と工夫を凝らしながら、前向きに弓連活動に取り組んでいます。

コロナ下の開催と云えば、賛否交々のなか開催され、12日間の熱戦を先ごろ終えた東京パラリンピック。水泳・陸上・トライアスロン・アーチェリー・バスケットボールなど、たくさんの種目で活躍する多くのパラ選手の姿がありました。

障害を抱えながらそれをものともせずプレーする選手たちの躍動にわれ知らず引き込まれ、気付けば熱心に応援し、その勝敗の行方に一喜一憂していました。

失くしたのやできないことを指折り数えるのではなく、自分ができることを精一杯表現しようとするその姿に、同じ競技者として深く賛同し、その清々しさに敬意する思いでした。

弓連の活動面でも、様々なやり辛さはこれからも続き、会員が一堂に介しての射会などはまだしばらく先になるのでしょうか。そんな中だからこそ、出来ないことを数えるのではなく、不自由の中ゆえに強くなる繋がりを糧にしながら、「またみんなで会いたいね」を合言葉に弓の研鑽に励む日々を過ごしていきたいと思っています。

引き続き皆様のお力添えを頂いて、支部の事業が円滑に進むよう精一杯努めて参りたいと思いますので、ご指導ご協力を頂きますよう宜しくお願いいたします。

<競技・講習会>

●令和3年度県南支部優勝杯戦

令和3年7月23日(金祝) 県立武道館弓道場
参加75名(二部制にて実施 午前の部39名
午後の部36名)

<近的>

◎団体戦：午前の部①松伏B(篠崎美緒・藤井健人・浦山正樹)②吉川C(鈴木多恵子・宮崎正範・瀧上三郎)③戸田A(加藤睦正・熊木幸夫・大竹淑夫) / 午後の部①草加A(日向美智子・浅井千恵・吉越眞之)②越谷A(沼澤睦美・小関一哉・藤井澄恵)③蕨A(木本将史・徳田まゆみ)

◎団体戦総合優勝：松伏B(篠崎美緒・藤井健人・浦山正樹)

◎個人戦：午前の部①中川淳一(蕨)②宮島直子(草加)③矢部 慶(川口) / 午後の部①鹿野信恵(越谷)②高橋なみえ(川口)③青木陽太(松伏)

<遠的>

午前の部①宮崎正範(吉川)②藤井健人(松伏)③宮内 毅 / 午後の部①沼澤睦美(越谷)②加藤徹也(川口)③木本将史(蕨)

●令和3年度県南支部選手権大会 【中止】

●第1回弐段以下講習会

令和3年5月5日(水祝) 県営大宮公園弓道場
参加38名 講師：坂本 恵、豊田英子各教士、木本将史錬士

●第1回参・四段講習会

令和3年5月9日(日) 県営大宮公園弓道場
参加25名 講師：鹿野信恵、加藤睦正各教士

●第2回四段以下講習会 【中止】

●県南支部高校生講習会 【中止】

●県南東部高校選手権大会 【中止】

令和3年8月21日(土) 県営大宮公園弓道場
審判員派遣中止



画・松本 正

県 央 支 部

支部長 荒井 渉

新支部長就任

支部長 荒井 渉

この度、令和3年3月20日(土)「令和2年度 埼玉県弓道連盟県央支部・さいたま市弓道連盟総会」に於いて前任の古泉支部長の後を受けまして、県央支部長に就任致しました荒井渉と申します。

浅学非才の身でございますので、支部長の大役を仰せつかりまして大変緊張しておりますが、前任の古泉支部長をはじめとする諸先生方のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

新役員の方々と会員の皆様に御協力を頂きながら、微力ではありますが、県央支部の更なる発展に精一杯努力してまいります所存でございます。

主な役員は次の通りです。

支部長 荒井 渉
副支部長 鷹巣光子(ねんりん監督兼務)
副支部長 松澤かおり(指導部長兼務)
副支部長 軽込次男(競技委員長兼務)
副支部長 小石久枝
理事長 廣川哲次
副理事長 三池和博
会計(支部) 小日向勝美、小畑裕司
会計(市) 森 半一郎、市川和子

埼玉県弓道連盟と県央支部の連絡を綿密にとりパイプ役として運営に心がけていきたいと思っております。埼玉県弓道連盟の諸先生方には今後も一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い致します。

<競技・講習会>

●県民総合スポーツ大会選手候補者選考会

令和3年6月19日(土) 大宮公園弓道場
参加41名

●武道大会選手候補者選考会

令和3年7月17日(土) 大宮公園弓道場
参加32名

●県民総合スポーツ大会及び武道大会選手候補者選考会

令和3年8月7日(土) 大宮公園弓道場
参加56名

●夏季高校生・中学生大会(通信大会)

令和3年8月 各学校道場等

参加468名

○団体男子/①浦和B(金子・有福・野中)②浦和A(加瀬・菊地・坂田)③浦和学院A(水本・的場・増山)○団体女子/①大宮東B(田口・本図・阿部)②大宮光陵A(中村・齊藤・杉下)③大宮南A(斎藤・埜・坂口)○個人男子/①兼子丈輝(浦和)②坂田和也(浦和)③安藤健悟(埼玉栄)○個人女子/①阿部 蓮(大宮東)②太田明華麗(与野)③森山晴奏(浦和一女)○中学生個人の部/①榎本佳那(市立浦和中)②山本香恋(市立浦和中)③藤原かのん(市立浦和中)

●県民総合スポーツ大会及び武道大会選手候補者選考会

選考会中止の為9月2日(木)に支部長と競技理事により12名の選手を選考

●参・四段講習会

令和3年4月25日(日) 大宮公園弓道場
参加午前、午後43名 講師:岡田義助、鷹巣光子、飯嶋 功各教士 講習内容:一手行射、主任講師による講話、射技指導、一手行射

●貳段以下講習会

令和3年4月29日(木) 県立武道館弓道場
参加午前、午後77名 講師:浅野有三、松澤かおり、平野博幸各教士 講習内容:一手行射、主任講師による講話、射技指導、一手行射

●称号者講習会

令和3年5月1日(土) 大宮公園弓道場
参加34名 講師:浅野有三、浅野光子各教士 講習内容:一手行射、基本体の研修、射技指導、一手行射



大宮武道館

西部支部

支部長 池谷 茂

射即人生

所沢久米弓道会会長 山田 紀之

本会創立者である片居木栄一先生が、母校川越高校弓道場改築にあたり「射即人生」と揮毫された。今も道場にある額は先生の人柄を偲ぶ貴重な品となっている。弓道教本第一巻には「弓射によって人生を深くまた高く、ゆたかにすることの経験をいう」ことばとある。私にとっても弓道は間違いなく人生を豊かにしてくれたものだ。このことばは、年齢を重ねるごとに大切なものとなっている。

ただ弓道も人生も思うように行かないことばかり。もうやめようか、投げ出そうかと思いつつも、何とか続けていくことができた。それは周りの人のおかげ。先生はよく人との関わり大切さを話された。一人稽古は上達しない、人生は人との出会い。

私は高校の教員として長年弓道部の顧問として生徒に関わってきた。弓道部のおかげで自分も教員人生ここまでやって来られたと思う。逆に私は弓道を通して子どもたちの人生に何か残せたのだろうかと思う。先日卒業生が、どうしても弓道がまたやりたくなくなって再開しましたと報告に来てくれた。とても嬉しい出来事だった。

<競技・講習会>

●第44回西部支部読売新聞さいたま支局杯争奪弓道大会 兼 県民総合スポーツ大会予選会 兼 寿射会

令和3年7月25日(日) 所沢市民武道館弓道場
□午前の部 参加48名(参段以下の部:24名
四、五段の部:24名)

○読売杯/①関口二郎(所沢)②中村徳海(所沢)③増渕忠美(志木)○寿射会/◇寿A:①増渕忠美(志木)②岡田次雄(富士見)③猪鼻正夫(三芳)◇寿B:①関口二郎(所沢)②渡辺豪(ふじみ野)③野村愛子(富士見)

□午後の部 参加42名(女子の部:24名
称号の部:18名)

○読売杯/①下田 徹(所沢)②渡邊徳雄(所沢)③深見恵子(所沢)○寿射会/◇寿A:①福本美知子(志木)②中川みゆき(志木)③相羽清子(志木)◇寿B:①下田 徹(所沢)②渡邊

徳雄(所沢)③藤澤和子(富士見)

読売杯総合優勝:下田 徹(所沢)

○県民総合スポーツ大会予選通過チーム/◇女子の部:富士見B(向井真衣、石井千春、藤澤和子)◇参段以下の部:富士見A(岡田次雄、奥村 彰、山崎文雄)◇四・五段の部:所沢E(関口研二、関口二郎、中村徳海)◇称号の部:所沢A(粕谷吉一、篠原一郎、渡邊徳雄)

●中部西部支部親善射会 【中止】

令和3年8月8日(日) 日高アリーナ弓道場

●埼玉県武道大会高校地区予戦会 【中止】

令和3年8月21日(土) 日高アリーナ弓道場

●第28回西部支部選手権大会 兼 県武道大会選手選考会 【中止】

令和3年9月4日(土) 所沢市民武道館弓道場

●第1回講習会

*令和3年4月10日(土) 弐段まで 朝霞市内間木公園弓道場 参加:午前12名/午後15名 講師:浅野光子教士 内容:一手行射講評・体配指導・射技指導

*令和3年4月10日(土) 参・四段 三芳町弓道場 参加:午前(四段)14名/午後(参段)15名 講師:鹿野信恵教士 内容:一手行射講評・射技指導(四段和服着用指導あり)

*令和3年4月15日(木) 四段まで 所沢市民武道館弓道場 参加:午前11名/午後18名 講師:市川政子教士 内容:一手行射講評・射技指導・失の処理対応

●第2回講習会

*令和3年5月30日(日) 弐段まで ふじみ野市立スポーツセンター弓道場 参加:午前15名/午後15名 講師:廣松 弘教士

内容:一手行射講評(全体・個別)・射技指導

*令和3年5月30日(日) 参・四段 富士見市立体育館弓道場 参加:午前(四段)9名/午後(参段)12名 講師:谷口保雄教士

内容:一手行射講評・射技指導・磔の付け方

*令和3年6月3日(木) 四段まで 所沢市民武道館弓道場 参加:午前16名/午後15名 講師:岡田義助教士 内容:一手行射:講評後講評を踏まえての一手行射・射技指導

●高校生夏期講習会8月1日(木) 【中止】

以上今年度の講習会は、人数制限をした上で、午前・午後同じ内容で行ないました。今後ともよろしくお願ひ致します。

中部支部

支部長 篤田 富男

わが道場①

先人の思いが詰まった道場

毛呂山町弓連会長 小駒 康

●連盟の成り立ち

毛呂山町の弓道は昭和10年頃、阿諏訪の安藤富次郎先生から奥富八一先生が手ほどきを受けたと記録があります。

奥富先生は川越の金枝先生、本庄の鈴木先生、浦和の森戸先生、秩父の小澤先生等諸先生から手ほどきを受け、昭和41年には奥富道場を開設し、広く町内、埼玉医大、明海大学等近隣の愛好者に開放し、弓道の普及・発展に貢献されました。そののち、公営弓道場の建設を目指し、秋馬邦夫氏、関根良平氏、岩上部長を先頭に、下田町長にお願いし昭和54年建設の運びとなりました。臥竜山中腹に建設された道場は五人立で奥行きが狭く体配には不向きですが、大会などでは控室との間を渡り板などで繋ぐなど工夫し、不自由なく使っています。

●現状

会員は30名ほどと全盛期の半以下ですが、コロナ禍による休場も最小限で済み、対策を十分取った上で練習に励んでいます。

町から弓連に道場の自主管理を任されていますので、随時利用できることが利点です。



今年は継矢の当たり年のようです。8月8日に千葉秀明さん(2回目)、9月7日に竹内要さん(皆中4本目)が継矢となりました。



わが道場②

我らの小川町弓道場

小川弓道会会長 島田 弘

山紫水明の地、わが小川町は「武蔵の小京都」と称される歴史と文化の町である。弓道についても古くからの伝統があり、その系譜を踏まえ稽古に励む人脈が連綿と続いてきた。

そして、現在につながる小川弓道会の活動の拠点として、昭和56年、当時の弓道愛好家の篤志などに依り現在の弓道場(正式には小川町立武道館弓道場)が建設されたのである。爾来40年、ここで弓道を学び、活躍する弓道人を輩出してきた。

しかし、歳月を経た建物は、最近ではあちこちに故障を生じ、備品の増加などにより手狭さを感じることもある。日常の管理と定期的な作業をしっかりと行い、整理整頓に努めている。

また、射法射技の稽古は良いとして、三人立、床面積も十分ではない道場なので、体配の稽古では、日頃の稽古に加え、時には隣の武道館の広いフロアで動きを確認することもある。



小川町弓道場は、比企地区には数少ない道場であり、小川弓道会は小川町在住者だけでなく、近隣の町の愛好者を含め、現在37名の会員で活動している。会員は会の運営にとっても協力的であり、また大変仲良しである。

コロナ感染症の終息を見た暁には、この道場にみんなで集まり、以前にも増す活発な事業を展開したいと思っている。

的中の一矢に余韻秋気澄む



三人立での
稽古風景



<競技・講習会>

●第21回中部支部選手権大会

兼 読売新聞さいたま支局杯争奪弓道大会

令和3年7月18日(日) 日高アリーナ弓道場
参加18チーム54名(事前予選通過者)

団体の部：①入間C(市川政子、荒川弘康、荒川直美)②日高C(関 竹夫、沼倉光広、坂東富士夫)③日高D(井上陽介、篠原和子、岩崎和博)

個人の部：①濱里史明(川越市)②荒川直美(入間市)③岩崎和博(日高市)

●県民総合スポーツ大会中部支部予選会

令和3年8月1日(日) 日高アリーナ弓道場
参加18チーム54名(事前予選通過者)

出場決定チーム/女子の部：川越A(古屋英美、山下由美子、川口えり子)、参段までの部：坂戸A(飯川 誠、小泉美緒、今枝武司)、四五段の部：日高毛呂山(坂東富士夫、関 竹夫、沼倉光広)、称号の部：毛呂山B(秋馬敏夫、北村邦男、小駒 康)

●第1回支部講習会①(弐段以下)

令和3年4月4日(日) 日高アリーナ弓道場
参加27名 講師：寫田富男、須田明江、寶田常則各教士、清水恵津子錬士

●第1回支部講習会②(参・四段)

令和3年4月18日(日) 日高アリーナ弓道場
参加36名 講師：那須充良、寶田常則各教士、清水恵津子錬士

●第2回支部講習会(四段以下)

令和3年7月4日(日) 日高アリーナ弓道場
参加47名 講師：寫田富男、須田明江、寶田常則各教士、宮崎 博錬士

新型コロナウイルス(COVID-19)

との戦い4

理事長 平野 博幸

1、令和3年度は感染再拡大の中で始まる

令和3年1月から3月にかけての2度目の緊急事態宣言が3月21日に首都圏でも解除されましたが、解除後わずかの間に再び感染者数が増加しました。先行解除された近畿圏では変異株の影響とみられる感染拡大が過去最大の感染者を発生させました。首都圏でも徐々に感染者が増大し、いくつかの地方都市でも人流の増加に伴って医療崩壊が懸念される状況が生まれました。令和3年度はこうした第4波の脅威の中で始まりました。

一方、1年以上に及ぶコロナとの戦いの中でさまざまな知見が得られ、コロナとの戦いと私たちの日常生活とを両立させる試みも行われるようになりました。埼玉連も、参加人数を制限したとはいえ2年ぶりに評議員会を開催し、コロナ感染予防を徹底しながらも予定した事業を行う決定を行いました。令和3年4月の埼玉連事業は予定通り開催され、コロナ禍のもとでの新しい事業として、埼玉県内での中央審査会も開催されました。県内各地で弓道教室も再開されるなどの動きも見られるようになりました。全国規模・関東規模の大会の中止決定などもありましたが、埼玉県内ではそれぞれの事業後に感染者の報告もなく、5月以降も十分な感染対策をとりながら事業実施が可能ではないかとの感触を得ていました。

しかし、全国的に見ると感染拡大はいつこうに収まらず、かえってこれまでで最大の危機とも言われる状況が生まれ、大型連休を前に東京・大阪など大都市圏での3度目の緊急事態宣言、埼玉を含む複数の県にまん延防止等重点措置が発令されました。こうした措置の期限は5月11日とされていましたが、感染者数は減少せず政府は対象地域を増やすとともに期限を5月31日まで延長しました。埼玉県はこの措置に対応して県営公園内施設の利用制限等の新たな対策をとりました。その対策の中に県営公園内駐車場の利用停止が含まれていました。大宮公園内駐車場の全面閉鎖、県立武道館駐車場の

土日における一部利用を除く閉鎖を受け、埼玉連は5月12日から5月31日までの間、国体錬成会を除くほぼすべての事業を中止・延期することとしました。令和2年前半に続いて2度目の事業停止はその後の事業展開に大きな不安をもたらすものでした。

2、デルタ株の猛威（第5波）と埼玉連事業

令和3年5月の第4波は第3波ほどの大きな波にはならず、ワクチン接種も始まってコロナ禍の収束が見えてくるのではないかとわずかな期待を持っていたのが6月のことでした。しかし、その後ウイルスのデルタ株への置き換わりが始まり、社会全体でも「自粛疲れ」から人流の抑制がきかなくなって人々の予想を超えて感染の拡大が起きていきました。オリンピック・パラリンピックが無観客ではありますが開催される中、これまでを大きく超える新規感染者が発生し、医療崩壊も現実の問題となってきました。この第5波の感染拡大はデルタ株によるものであるためか、われわれの想像を超えるものになりました。8月19日には埼玉の1日の新規感染者数が2,000人を超え、全国でも20,000人を超える新規感染者を数えました。国体も2年続けて中止になるなど、この時点では今後の見通しが全くつかない事態でした。

埼玉連では状況の推移を見つつ、1ヶ月に1回のペースで役員会を行い、事業実施の判断を行っていましたが、こうした事態に対応するため役員会を前倒しで開催し、事業実施の目安となる基準を作成した上で8月下旬から9月末までのすべての事業を延期・中止することとしました。各支部・各連盟にも役員会名で9月末までの事業延期・中止を要請しました。延期された事業の中には地方審査会・中央審査会も含まれ、年度後半の事業展開に大きな影響を与えることが予想されましたが、会員の安全を守るための措置として判断しました。

3、新規感染者数の激減と今後の見通し

第5波の猛威はわれわれの生活を脅かすものでしたが、9月に入ると徐々に新規感染者数は減少していきました。その減少はこれまでの第4波までと比較しても「激減」と表現できるものでした。ワクチンが普及してきたのは事実ですが、専門家も激減の理由をそれだけで説明はできないとしました。

こうした状況を受け、埼玉連は事業実施基準に基づいて10月から各事業を再開しました。各支部・各連盟も事業を再開しましたが、これまでの経験及び第6波への警戒から事業開催は慎重に行われました。

ワクチンの効果（抗体値）は徐々に減少するとの報告もあり、各国で依然として感染拡大が続いていること等を考慮すると、今後数年はコロナ禍に対応した生活様式が求められるとの報道もあります。埼玉連もしばらくは現在の体勢【ガイドライン・手引きによる活動、役員会・常任理事会・理事会等を開催しての臨機応変な対応、Zoom会議の活用、各支部・各連盟との情報共有等】を維持しながら活動を続けることとなります。

4、得られた教訓

コロナ禍は埼玉連にとってこれまで経験したことのない緊急事態でした。しかし、こうしたパンデミックは今後も起こりうると言われていきます。「その時」にあたって的確に対応するためにはこの1年半の経験は貴重なものです。私なりに整理すれば、

- ①事態への対応は最悪の状況を想定して行う。
- ②科学的知見、客観的事実に基づいて議論し、判断する。
- ③役員をはじめすべての会員が情報を共有し、状況を客観的に把握する中で意思統一を図る。とりわけ役員と支部の間、及び各支部間の状況の共有は重要であり、支部長の役割は大きい。
- ④誰もが見ることのできる基準をもって事態に対応する（ガイドライン・手引き・実施基準等）。
- ⑤日常業務を行うための埼玉連の役員体勢をそのまま利用するだけでは緊急事態に対応することは難しいので、役員会などの臨時の組織を作り機動的に対応する。必要に応じて支部長を加えた協議が必要となる。
- ⑥支部・連盟の活動に対しても役員会・常任理事会・理事会は責任を持つ（必要があれば強い要請も行う）。
- ⑦全国の状況、他団体の状況にも目を向ける。などとなります。

パンデミックの終息宣言は出されていません。年末にかけて第6波が来ることも想定されてい

ます。まだまだ気を許すことはできませんが、
埼玉連は得られた教訓を今後に生かしながらウイ
ズコロナの時代の中でも会員の希望の実現のた
めに取り組んでいきます。

コロナ禍の収束は見通せていませんが、今回
で「新型コロナウイルス (COVID-19) との戦い」
の記録はひとまず終了します。

今後も様々なご意見や情報をお寄せいただき
たいと思います。



画・松本 正

編集後記 68号

今年度もコロナ禍で、会員のために様々な
感染防止策を工夫して行事に取り組んで
いる役員の方々と、練習もままならない
会員の方々をつなげるのが「埼玉連だより」
の役目と益々感じています。

さて、日本スポーツ協会公認のスポーツ
指導員 (弓道コーチ I) と全弓連の地方委
員制度について、更新と新規取得の案内が
各道場へ通達されています。

これらの資格について、どのような資格
か、どうすれば取得できるのか、よく理解
されていない会員が多いようなので今回取
り上げました。

「簡単に、わかり易く」を意識して、指
導委員会へ記事をお願いしました。

この資格取得には数年かかります。これ
からの弓道発展のためには必要な資格にな
りますので、取得資格のある方々には是非
取得していただきたいと思います。

編集長 高橋久雄

過去の「埼玉連だより」から
読んでみたい記事を掘り起こ
してみました。

以下、原文のまま再掲載しま
すので、参考にして頂けたら
幸いです

埼玉連だより 22号

(平成10年10月1日発行)より

弓具の取扱いと性能について (1)

範士八段 橋田 栄次

「弓道」誌に、黒川錬士の「弓具の知識・取扱い」
についての要望が出されており、私自身も、専
門家による十分な解説を切望する者の一人です
が、取りあえず断片的ながら、私の70年間の
見聞と経験に、力学的な考えを加えて説明した
いと存じます。

なお、弓道教本に記載されていること、一般
に実行されていることは省略します。

I. 弦

1. 弦輪の作り方

一般に下輪と同じ作り方が用いられており、
その要領は、「弓道」1980年7月号に黒河内弦
師が詳細に説明されています。

然しながら、下は調節しないから二重巻きにす
るが、上は調節するから一重巻きにすべきだ
との説もあります。

出木を調節するため、二重巻きを裏返しに使
用するのを時々見受けますが、十字に重なった
点が弓に当たるため、弦が安定しないと共に、損
傷し易いため止めてください。

私は、弓に応じて次の四通りに使い分けてお
ります。

- (1) 二重巻き (標準)
- (2) (1) を左右対称に作る
(ひねりがかけられな
いため注意が必要)
- (3) 一重巻き
- (4) (3) の裏返し
- (5) (2) (4) は出木の弓に適し、(3) (4) は



(1)(2)に比べ弦半分位関板との間隔が狭くなる。

一重巻きは弛む心配をする人がありますが、1回毎によくひねりをかけて巻けば、弛む心配はありません。但し、堅い合成弦は無理です。

2. 「まぐすね」の使い方

摩擦熱で「くすね」をやわらかくすることは、教本にも書かれていますが、片手で弓を持ち上げたまま使う方が多く見受けられます。これでは、熱で弦の芯まで「くすね」がやわらかくなるまで強く擦ることは困難ですから、本弭を安定させて擦ってください。

本弭を受ける板が用意されていることが望ましいのですが、無い場合は、弓立ての脚等多少きずがついても差し支え無い所に当てて下さい。

畳や絨毯は差し支え無いと思いますが、床や電気絨毯に当てない配慮が必要です。

3. 弦 試 し

新弦の場合、巻藁で少しずつ多く引いて数本目で矢束迄引く弦試しは、多くの方が実施して居られますが、弦輪を作り直した時は実施しない方が多い様です。新弦の時は真直のものを巻きますが、巻き直しの時は巻きぐせのついたものを巻くのですから、上輪に関しては新弦の時よりも必要性が高い筈です。

4. 中 仕 掛

中仕掛の巻き方には色々ある様ですが、

- (1) 繊維が交叉すること
- (2) 最後が弦枕が擦る方向に巻かれること
- (3) 両端に瘤ができないこと

上の条件を満たすため、私が実施している方法を紹介します。

麻(切れ弦を使用)を長目(40センチ余)に取り、弦に「くすね」をつけ、下から上へ右巻きで巻き上げ、「くすね」をつけ、太さを調節しながら巻き始めより少し下まで巻き下げます。

上で麻を二つに分け、左巻き右巻きと二回に巻き下げるのと同じ結果になりますが、上の瘤が出来ない利点があります。

5. 弦の太さ(重さ)

弦が軽いと矢の速度が速いことは、理論的にも明らかですが、弦の重さが一割増減しても、矢の速さの増減は300分の1程度に過ぎず、弓把の高さの5ミリ程度の増減に相当します。

弦音は弦が関板に当たる音ではなく、姫反り部分に当たる音ですが、私は、弦音のよし悪し

は、弓と弦との共振に関係あるのではないかと考えております。

弦が軽いと弦だけが踊って、軽い安っぽい弦音になり、少し重目の弦で正しく離れた方が、鋭い響きのある弦音が出ると考えます。

従って、教本に記載されているよりやや太く、18kgないし20kgの弓で二匁が適当と考えます。

II. 弓

1. 弓の張り方

(1) 左足を動かさないこと

最近では、弓を張る時左足を動かす方が多く見受けられます。裏反りの少ない弱い弓を張るには、差し支え無い様にも考えられますが、次の2点を考えると、絶対に移動すべきではありません。

必ず足踏み(弓を引く時よりやや狭く、左足をやや前に出す。)を定めて張って下さい。

ア. 弓の出木入木の矯正には、左または右に捻りながら張る。上の強い弓は、上方に押しながら張る。

イ. 弓を張る時は体の重心が左に寄り、体重の約3分の2が左足にかかっております。

その足を浮かせた瞬間、その重み(力)は左手を通して弓にかかります。

但し、支点になる右足からの距離の関係上、この力は体重の4割程度になりますが、数分の1秒の短い時間とはいえ、弓力の約1倍半の力がかかるのを考えると、まったく恐ろしくなります。

弓力の約1倍半ですが、短時間のため弓が緩衝してくれますから、左手にはこれほど強く感じず、弓も直ちに破損することはありませんが、危険この上も無いことです。

2. 押す位置

弓の握りを持って押す様に出来ている筈ですから、握りを押すのが当然ですが、上下のバランスの矯正のためには、外竹の節をさけて、上下に調節して下さい。

但し、特に弓師からの指示があった場合は、その弓師の弓に限りそれに従って下さい。

3. 力を緩める時

下輪をかけたなら、下輪が移動しない様に右手で押さえながら、必ず上を見て、上輪の位置と弦と関板との隙間に注意しながら、ゆっくり力を緩めて下さい。

4. 弦輪の位置の直し方

片足を弓に掛けて、一本足になって直す方を見受けますが、不安定で体裁も良くありません。片手で末(本)弭を支え、反対の手で鳥打ち(下成節)の辺を押せば、支えている手の拇指で容易に直せます。

5. 弦を張るための扱い

窪みが深くなったのをよく見掛けますが、末弭を損傷しますから取り替えて下さい。

窪みは一箇所とは限りませんから、数箇所つけるのも良いと思います。

6. 矯正の仕方

弓師によって支持が必ずしも一定しない様ですから、一般論に止めます。

ア. 出来る限り安定した姿勢で行うこと。

一本足での矯正は絶対に止めて下さい。

イ. 弾みをつけず静かに力を加え、なるべく長く持続すること。出来れば1分間位が望ましい(後述の弓の特性参照)が、実際には数秒位になると思います。

ウ. 節を踏むな!

私共の若い頃は厳しく言われたものですが、最近は無関心の方が多く様に見受けられません。

節(特に外竹)は踏まない方が良いと思います。

エ. 出木・入木の矯正

必ず弦を同時に押すこと。姫反り部分は弓と一緒に弦を握って押す。

弦が返らない程度に弓だけ押したのでは、殆んど効果が無いと思います。

7. 弓力の計り方

並尺 85 センチ、2 寸伸び、90 センチ(弓の外側)と定められています。自分自身の矢束で何 kg になるか知って置くことも必要かと思えます。

(計る時は次の点を注意して下さい。)

ア. 特に定めは無いと思いますが、条件を一定にするため、弦を張って少し置いた後、2、3回素引きしてから測るのが良いと思います。

イ. 片手で押す場合、握り締めると「上押し」が利く場合がありますから、注意して下さい。

ウ. 両手で押す場合は、目盛が見える最小限まで両手を接近させ、なるべく内側(人差指)に力を入れる様にして下さい。

エ. 押し過ぎた場合は、必ず大きく戻してから押し直して下さい。戻しながら測ると弱くなります。(弓の特性参照)

8. 弓を張っての持ち歩きについて

最近の弓は、比較的弱く裏反りも少ないため、経験したことの無い方が多いかも知れませんが、弦は張ったままでも自然に切れるものです。

(弓の特性参照)

万一、公共の乗物の中で弦が切れ、他の乗客に大怪我をさせて、持込禁止にでもなったら、弓界の致命傷にもなりかねません。安全のため、弦を二本掛ける場合は、二本に平均に力がかからなければ、殆んど効果がありません。

9. 素引きについて

控室等で、他人の居る方に向かって素引する方、素引をしている人の前に平気で座る方をよく見かけます。

手が滑った場合は、弦が切れ、本弭が前に跳ねて大怪我をしますから、絶対に止めて下さい。

注 — — — — —

1. 「2. まぐすね」は、今では少なくなっていますが麻弦に対してかける物です。
2. 弓道誌(平成14年7月~9月号)に、本記事を加筆・修正されたものが掲載されています。弓道誌も是非お読みください。
3. 「5. 弦を張るための扱い」は、弓道誌には「弦を張るための板」となっています。
4. 次号には磔について掲載予定です。

(編集部)



画・松本 正

コロナ禍の稽古に求めるもの

熊谷運動公園弓道会 高橋 久雄

コロナ禍、練習時間に制限があったり、指導が受けられない方も大勢いると思います。

下記は、県北支部練成会（平成27年10月17日）で、故松沢岳範士が話された内容の一部です。これらは先生が生前よく云われたことでもあり、多くの方が耳にされていることでしょう。

稽古ができるようになった今、改めて先生の言葉を噛みしめてみたいと思います。

— — — — —

★稽古の心構え（故 松沢岳範士）

遊び半分はダメ、的中だけ求めたものはダメ。ではどうするか。下記の実践が大切

1. 射法八節を正確に身に着けて欲しい

的中はそのあと！

何を頼りにすればよいか？

⇒教本の図解が頼りになる。教本の図解を参考にしてください。図解が先生です。

2. 息合い

これを学ぶこと。一動作一呼吸。

動いているとき吸う、止まって吐く。

息を吐きながら離れること

一呼吸とは、胸ではなく腹式で行うこと

（腹式呼吸）

吸うときお腹を膨らませ、お腹で吐く

絶えず息合いにこだわると、自然に動作が呼吸にあってくる。

3. 身体で弓を引く

身体のどこで引くか？

最初は手で引く⇒肘で引く⇒肩で引く

⇒胸で引く（飛ばす）

・手で引くのは初心者です。

・身体で引くとは、肘で引くこと。

『腹で引く』という先生もいる。『弓の中に体を入れる』という先生もいる。

・重心のかけ方

胴造りでは、足裏に重心を感じる、臍（ひかがみ）を張る、お腹に力を入れる。

引いてくるとき、「土踏まず」から前へ重心を移す。これが「弓の中に体を入れる」ことになる。

4. 会の頑張り

頑張り方：上記2,3を覚えると頑張れる
早気は減点の対象です。

5. 残身（心）は丁寧に！

余韻を残す。残身は会の半分。

弓倒しも丁寧に行うこと

離れ⇒残身⇒弓倒し⇒物見返しまで

丁寧に言う

以上を頭に入れて稽古すること

6. 稽古するとき課題をもって稽古する

・弱点は直す。

・良い点は伸ばす

的中だけでは寂しい。自分の射を磨くこと。

まず自分の長所と短所に気づくこと。

教える側は、短所しか言わない人が多い。

7. 指摘事項、気づいた点はメモする

一般的に：

聞きっぱなし：7%位しか消化しない

メモする：30%位消化できる

メモの実践：70%位消化できる

メモしてそれを実践すること。

覚えてだけでは忘れてしまう。

8. 覚えてだけではだめで、自分で実践が必要

頭で覚える⇒体で覚える（実行する）

・自分で工夫したもの（工夫して覚えたもの）は一生忘れない。

・人に言われて直したものの、教えてもらったものは忘れやすい

9. 弓道人のマナーを守る。

平成12年9月頃の弓道誌に掲載あり

10. 『百手一手』の教え

・やたらに200射引くよりも、

心を込めて一手やる方が身につく

・一手に心を込めて引くこと。的中の本数を数えてはだめです。

忙しいなか、1本でも2本でも心を込めて引くことが大切です。

・バカバカ引いてはうまくならない。

11. 指導者としての心得

他の人から見たら模範になる人である。

手抜きはしない。指導者はいつも見られている。最後まできちんと八節をする。

最後に 常々の稽古を締めてする人は

晴れなるときも心惑わず

「公認資格認定制度」

—日本スポーツ協会公認スポーツ指導員と 全弓連地方委員について—

指導委員会 池谷 茂

●2つの公認資格

(A) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導員 (弓道コーチ1)

- 日本スポーツ協会が認定する資格で、スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身に付けることが目的です。
- 国体の監督はこの資格が必要です。
- 新規資格取得の手順〔①→②→③〕
 - ①資格取得に必要な専門科目(40時間の実技講習)を受講する。但し、埼玉連では40時間の実技講習を行っていない為、免除条件となる指定の伝達講習会を受講する。
 - ②専門科目の修了証を添えて、日本スポーツ協会経由でNHK学園の通信教育(共通科目I)を申込み、受講する。
 - ③共通科目I修了証明証をもって、日本スポーツ協会へ資格取得申請する。

(B) 全弓連が認定する「地方委員資格(審査委員・講師・審判委員)」制度

- 審査委員・講師・審判委員を務めるときに必要な資格です。
- 新規資格取得の手順〔①→②〕
 - ①前記のスポーツ指導員(弓道コーチ1)資格の取得済みが条件で、
 - ②その後、指定の認定講習会の受講と検定に合格することが必要です。

上記資格取得にあたり、通常は下記の「2種類の資格取得の流れ」の手順を踏みますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策から資格取得は特例として右記の対応となります。

●令和3年度の新規取得特例措置について

(A) 日本スポーツ協会公認スポーツ指導員 (弓道コーチ1)資格

下記条件i～iiiのいずれかを満たす者が令和3年度中に課題レポートを提出し、埼玉連経由で専門科目免除の申請を行うことで令和4年4月に「専門科目免除修了証」が発行され、NHK学園の通信教育の受講が可能となります。

- 資格取得ができる者
 - i 条件1: 錬士取得後4年以上の者
(教士・範士取得者含)
 - ii 条件2: 五段取得後4年以上の者
 - iii 条件3: 学校教育法の定める教員(式段以上取得済)で、弓道部指導員として所属長の推薦がある者
- 課題試験(レポート)の提出について
以下の課題について400字詰原稿用紙4枚以上の論文を提出して下さい。

○課題

- 条件1対象者: 指導員として自身のあるべき姿勢や心構えについてどう考えているか述べてよ。
- 条件2対象者: 弓道が人々に持続的に愛好されるのはなぜか述べてよ。
- 条件3対象者: 弓道部員が弓道で如何なることを学ぶことに期待するか述べてよ。

*課題レポートに関する詳細と提出先等については埼玉連HPを確認願います。

(B) 地方委員資格認定

対象は弓道コーチ1取得済の人で、以下の課題レポート(3つ共)を提出してください。

- (1) 地方委員としての心構えについて
- (2) 公益法人としてのあり方について
- (3) 自然環境保護の観点から見た矢羽問題について/課題と考え方について

*埼玉連指第10号(令和3年8月3日)文書を確認願います。

●2種類の資格取得の流れ (記載年は今から取得に向けての流れ)

